

## 2019年G20 OSAKA、英メイ首相 気候変動セッションや他での発言

先のG20 OSAKAでの、英国メイ首相の以下の3つのセッションでの模様がBBCで報じられていました。

### 気候変動セッション

メイ首相は、気候変動セッションを先導して、最近の数カ月間に英国を含むG20のいくつかの国々で何十万人もの若者たちが国の指導者たちに、気候変動に対処するように強く訴えるデモなどの行動が増えていることを憂慮していることを、述べた。



G20 OSAKAの気候変動セッションで発言する英国メイ首相(右端) (BBC HPより)

英国は2050年までにCO2のネットゼロエミッション国になるということに法規制をかけ、その遵守を目指す最初の国であることを表明した。G20の共同声明がこの問題について「最強の表現」を持つことを目指して、他の世界的指導者たちの野心を高め、英国のようにネットゼロエミッションを目標設定するよう求めた。しかし、G20の20人のリーダーのうち19人だけが、2015年パリ協定で設定された目標を達成することを約束し声明にサインアップさせたが、米トランプ大統領は、ここでも署名を控えた。

米国を除く、19の世界的リーダーによって再確認された2015年パリ協定の下では、すべての国は、地球規模の気温上昇を産業革命前の時代より+2°C (3.6F)未満を保つことを約束されている。しかし、科学者達は、1.5Cの上昇が危険な気候変動のしきい値であると言い、他の国々が英国のネットゼロエミッション目標を採り入れたした場合でも、2100年までに、これを下回る可能性が50-50であると語っている。

### 特別な例 (Extraordinary Example)セッション

メイ首相は、またこのセッションを先導して、世界の致命的な3つ病気(結核、マラリア、エイズ)と闘う、国際機関である世界基金への£14億(約2000億円)の拠出金分担の誓約に従うことを、他の国々に求めている。

英国は、この3年間、毎年£4億6,700万(約650億円)を世界基金に拠出し、低開発国で200万人以上の人々の結核治療に、マラリアから人々を守るための900万張の蚊帳の提供、更に300万人以上のエイズ・ウイルスの感染者に治療を提供している。グローバルファンドの支援者の一人である億万長者の慈善家、ビル・ゲイツ氏は、英国の誓約は「本当に素晴らしい」と述べ、G20の国々が海外援助を継続して支援するよう求めている。

### 人権問題セッション

メイ首相は、このセッションでも先導役を果たしたが、内容は都合で割愛したい。

今回のG20 OSAKAでの様々なセッションの中で、英国のメイ首相は退任が決まっているとは言え、3つのセッションで積極果敢にグローバルな課題に取り組んでいる英国の様子を説明しながら、G20の首脳陣に参加や支援を求める姿は、立派であった。

かつての大英帝国は解体されたが、その姿は英語を共通語とする人口24億人の英連邦として、ゆるやかな国家連合体として保たれている。毎年持ち回りで開催され、53か国の元首や大統領、首相が参加する英連邦首脳会議や、オリンピックの間に4年毎に開催され英連邦53か国が参加するコモンウェルスゲームと呼ばれるスポーツイベントに連帯感が継承されている。これらグローバル級の様々なイベントを企画、実行、運営する力こそが、グローバル化慣れた、英国のDNAではないかと、思えてならない。(了)